

令和2年度 由仁町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

由仁町は、古くより営農の主軸を水稻に据えてきた稲作地帯であり、転作の割合が半数を過ぎた今日でも、主食用米の生産は依然として重要な位置を占めている。

約3,842haの本町水田面積は、約1,735haを水稻として、約2,107haを転作田として利用している。

令和元年度における転作田の大まかな内訳は、小麦が44%、大豆が21%、飼料作物が18%であった。残る17%をてん菜・小豆等のその他作物、野菜・花卉等の高収益作物で分けることになるが、本町転作田の大部分は国の戦略作物、特に麦大豆が作付されている現状がわかる。

その理由として大きいのは、水稻からの転換に際し、他の畑作物に比べて新たに必要になる設備が少ないこと、育苗等の準備作業が不要なことが挙げられる。これらの利点は、自らの水稻を転換する場合はもちろんのこと、離農等に伴う近隣農地の取得に際しても発揮された。従って、農地の流動性確保に麦大豆は大きく貢献してきた事実があり、今後もまた予想される農家人口の減少に対応し、優良農地を次世代に繋ぐため、麦大豆の生産基盤の確保は継続して最大限に行われるべきと考える。

その一方で、本町転作田の作付割合は、麦大豆に大きく偏っていることもあり、その連作による病害虫発生、収量低下が懸念されている。この課題を直接的・間接的に解決しようとする試みを畑作物全般（てん菜、馬鈴しょ、飼料用トウモロコシ、地力増進作物）について、輪作体系構築の推進等、横断的に策を講じる必要がある。

また、野菜を始めとする高収益作物については、収益性向上の観点から、積極的な作付面積の拡大を目標とし、従来から産地化を目標として振興してきた馬鈴しょ、玉ねぎ、南瓜、長ねぎ、イチゴ、トマト、メロン、花卉、ニンニク、ブロッコリー、キャベツ、アスパラ、ピーマンは今後も重点的に扱うものとし、ビニールハウスを始めとする施設栽培は、製品率の向上や長期取りの作型導入による収益性向上に資するため、品目を問わず振興するものである。

なお、畜産振興と関連する飼料作物の作付や耕畜連携の取り組みについては、和牛の飼養頭数増加を始めとして産地化の気質が高まっており、作業性の向上や耕種農家との連携を引き続き後押しする方針である。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

非主食用米については、主食用米の作付予定面積が、当年の生産の目安を上回る場合に作付することを基本的な考え方とする。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

産地交付金の活用により多収品種の導入等を推進し、直播栽培等による低コスト化と省力化による栽培体系確立を図るとともに、収益性を確保しながら安定的な生産と需要に応じた取組拡大を目指す。

イ 米粉用米

需要拡大が見込めないことから作付の予定はない。今後販路確保、需要拡大の形が見込めれば、多収性専用品種への助成等を検討する。

ウ 新市場開拓用米

現在のところ作付予定なし。

エ WCS用稲

道内及び周辺地域の需要動向を見ながら作付計画を作成し、直播栽培による省力化と栽培体系確立を図り、安定的な生産を目指す。

オ 加工用米

現在のところ作付予定なし。

カ 備蓄米

現在のところ作付予定なし。

(3) 麦、大豆、飼料作物

転作田の利用を図る上で、土地利用型作物を中心的な作物として位置付け、輪作体系の構築を促すなど、生産技術向上を推進する。

飼料作物については、団地化による作業効率化の取り組み、堆肥散布による耕畜連携を支援する。

(4) そば、なたね

そばについては、良質なそば生産を継続するために地力向上に繋がる取り組みを支援する。なたねは作付の予定なし。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

作付面積が減少傾向にあり、これを留めて現状の微増を目標とする。馬鈴しょ・てん菜については、主産地として安定的な供給が出来る体制作りを支援するとともに、作付面積維持と輪作体系確立を図る。

野菜・花きの高収益作物について、玉ねぎ、かぼちゃ、長ねぎ、ブロッコリー、キャベツなどの土地利用型野菜と、花き・イチゴ・トマト・メロン・ニンニク・アスパラ・ピーマンなどの労働集約型作物を振興し、複合経営化を促す。

地力増進作物については、小麦、大豆の連作圃場が増加する状況の中、適正な輪作体系の確保に重要な位置づけと考える。

(6) 畑地化の推進

町内水田を畑地化する具体化した計画はないため、耕作者からの申し出に応じて再生協議会にて協議する。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	1,735	1,672	1,672
飼料用米	0		
米粉用米	0		
新市場開拓用米	0	0	0
WCS用稲	2.2	4.8	4.8
加工用米	0	0	0
備蓄米	0	0	0
麦	943	1,000	1,000
大豆	447	452	452
飼料作物	387	400	400
そば	0.8	2	2
なたね	0	0	0
その他地域振興作物	265	273.7	273.7
野菜等	179	184.1	184.1
・馬鈴しょ	25.6	24	24
・玉ねぎ	88.8	89	89
・かぼちゃ	24	20	20
・長ねぎ	0.8	0.8	0.8
・イチゴ	1	1.0	1.0
・トマト	0.9	1.0	1.0
・メロン	0.3	0.3	0.3
・ニンニク	0.2	1.1	1.1
・ブロッコリー	5.9	8.1	8.1
・キャベツ	1.5	5.0	5.0
・アスパラ	1.7	1.7	1.7
・ピーマン	0.2	0.2	0.2
・小豆	11.8	13.0	13.0
・果樹	0.3	0.3	0.3
・薬草	4.5	0.5	0.5
・その他野菜等	10.9	18.1	18.1
花き	8.6	9.1	9.1
その他	70.1	65.5	65.5
・菜豆・雑穀	0.8	1.5	1.5
・てん菜	69.3	64	64
地力増進作物	7.5	15.0	15

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）	
				前年度（実績）	目標値
1	小麦	小麦収量向上対策	作付面積 反収（秋小） 反収（春小）	(2019年度) 943ha (2019年度) 548kg/10a (2019年度) 463kg/10a	(2020年度) 1,000ha (2020年度) 540kg/10a (2020年度) 360kg/10a
2	大豆	大豆収量向上対策	作付面積 反収	(2019年度) 447ha (2019年度) 248kg/10a	(2020年度) 452ha (2020年度) 300kg/10a
3	てん菜	てん菜収量向上対策	作付面積 反収	(2019年度) 69ha (2019年度) 7.2t/10a	(2020年度) 64ha (2020年度) 6.9t/10a
4	菜豆・雑穀	豆類省力化対策	作付面積 技術導入率 労働時間	(2019年度) 0.8ha (2019年度) 100% (2019年度) 3.59h/10a	(2020年度) 1.5ha (2020年度) 100% (2020年度) 3.59h/10a
5	デントコーン	デントコーン 輪作導入支援	作付面積 転作畑作物の輪作率	(2019年度) 12ha (2019年度) 63.5%	(2020年度) 32ha (2020年度) 65.0%
6	そば	そば助成	作付面積	(2019年度) 0.8ha	(2020年度) 2.0ha
7	そば	そば収量向上対策	作付面積 反収	(2019年度) 0.8ha (2019年度) 100kg/10a	(2020年度) 2.0ha (2020年度) 90kg/10a
8	馬鈴しょ・玉ねぎ・かぼち ゃ・長ねぎ・花卉・イチゴ・ トマト・メロン・ブロッコリ ー・キャベツ・ニンニク・ア スパラ・ピーマン	振興作物助成 1	作付面積	(2019年度) 149.1ha	(2020年度) 150ha
9	野菜・果樹・薬草 小豆	振興作物助成 2	作付面積	(2019年度) 25.9ha	(2020年度) 30.2ha
10	馬鈴しょ・玉ねぎ・かぼち ゃ・長ねぎ・花卉・イチゴ・ トマト・メロン・ブロッコリ ー・キャベツ・ニンニク・ア スパラ・ピーマン	施設栽培 振興作物助成 1	作付面積	(2019年度) 10.9ha	(2020年度) 11.3ha
11	野菜・果樹・薬草	施設栽培 振興作物助成 2	作付面積	(2019年度) 1.71ha	(2020年度) 1.72ha
12	飼料作物、WCS用稲	資源循環助成 (耕畜連携)	作付面積（飼料作物） 取組面積	(2019年度) 387ha (2019年度) 258ha	(2020年度) 400ha (2020年度) 276ha
13	飼料作物	飼料作物団地化助成 (耕畜連携)	作付面積（飼料作物） 作業集積率	(2019年度) 387ha (2019年度) 22.3%	(2020年度) 400ha (2020年度) 28.5%
14	地力増進作物	輪作緑肥助成	作付面積	(2019年度) 7ha	(2020年度) 15ha
15	小麦、大豆、てん菜、 菜豆・雑穀、そば、 振興作物助成 1 及び 2 の対象作物	輪作加算 (前作 小麦・大豆)	作付面積 小麦の輪作率 大豆の輪作率	(2019年度) 1,637ha (2019年度) 51% (2019年度) 82%	(2020年度) 1,605ha (2020年度) 55% (2020年度) 87%
16	施設栽培振興作物助成 1 及び 2 の対象作物	施設栽培技術加算	作付面積 技術導入率	(2019年度) 7.32ha (2019年度) 57.8%	(2020年度) 12.93ha (2020年度) 60.0%

17	てん菜	てん菜風害対策加算	作付面積 取組面積	(2019年度) 69 ha (2019年度) 0ha	(2020年度) 64ha (2020年度) 58ha
18	麦、大豆、飼料作物、WCS 用稲、加工用米、飼料用 米、米粉用米、そば、な たね、新市場開拓米、高 収益作物	転換作物拡大加算 ①	作付面積 拡大面積	(2019年度) 1,964 ha (2019年度)	(2020年度) 2,023ha (2020年度) 58ha
19	高収益作物	転換作物拡大加算 ②	作付面積 拡大面積	(2019年度) 1,964 ha (2019年度)	(2020年度) 2,023ha (2020年度) 1.5ha
20	高収益作物(園芸作物)、 新市場開拓米、加工用 米、飼料用とうもろこし	高収益作物等拡大加算 ①	作付面積 拡大面積	(2019年度) 217 ha (2019年度)	(2020年度) 228ha (2020年度) 10ha
21	高収益作物	高収益作物等拡大加算 ②	作付面積 拡大面積	(2019年度) 217 ha (2019年度)	(2020年度) 228ha (2020年度) 0.9ha

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内として下さい。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり